

2010年1月1日～2024年8月31日の間に 当院整形外科を死亡退院された方のご家族へ

「当院整形外科における死亡退院症例の検討」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学 脊椎・関節整形外科学 講師 大成 和寛

1. 研究の概要

日本における平均寿命は世界トップクラスであり、それに伴い、入院患者さんの年齢もより高齢になってきています。その結果、入院後早期もしくは術後早期に急に状態が悪くなったり、他の問題が出現する患者さんも以前に比べ増えてきたように思います。

また、以前から大腿骨近位部骨折（股関節周囲の骨折）の患者さんにおける生存率が悪いことが知られていました。その対策として、厚生労働省は大腿骨近位部骨折の患者さんを受傷早期に手術したり、骨粗鬆症の治療をきちんと行うと、病院の収入が増えるように対策を行いました。この対策の結果はまだ確認されていません。しかし、こちらも以前からわかっていたことですが、大腿骨近位部骨折の患者さんは転院や施設入所などを繰り返し、追跡調査が難しいこともわかっていました。実際にこの対策後の追跡調査がどこまで正確に出来るかは不透明なままです。

そこで、当院でわかる範囲、すなわち当院整形外科から死亡退院した患者さんを調査し、どのような理由・病態で入院してきた患者さんが死亡に至ったかを評価したいと考えます。そして、その中に大腿骨近位部骨折の患者さんがどの程度を占めていたかを調査します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2010年1月1日から2024年8月31日までの期間に整形外科から死亡退院した患者さん

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2024年12月31日

3) 研究方法

医事課から上記期間、当院を死亡退院した患者さんのデータを受け取る。

データから整形外科から死亡退院した患者さんを抽出し、下記を調査する。

死亡年齢、入院主病名、手術予定の有無、術前死亡 or 術後死亡、DNARの有無、死因（死亡病名）

整形外科における入院日数、透析の有無、死亡後画像検査（AI）の有無

4) 使用する情報の種類

患者ID、死亡年齢、性別、入院主病名、手術予定の有無、術前死亡 or 術後死亡、DNARの有無

死因（死亡病名）、整形外科における入院日数、透析の有無、死亡後画像検査（AI）の有無

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学脊椎・関節整形外科学内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族のご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料は、この研究は氏名、生年月日などのご本人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、患者さんの情報が研究に使用されることについて、ご家族の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年11月30日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。

<お問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院整形外科

氏名：大成 和寛

電話：086-462-1111 内線 25507（平日：10時00分～15時00分）

E-mail：sekei@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究は、学内研究費を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。